

〔類聚雜要抄〕一保延二年十二月日、内大臣殿藤原廂大饗差圖東三條殿

箸口徑五寸、二方折立端已上深草土器用之

〔西宮記〕一天皇元服

寛仁不儲御箸并臺等、仍忽依太政大臣仰削御箸以樣器盤爲箸臺也

〔三中口傳二甲〕一貴賤饗應事

公卿ノ饗ハ高坏例飯ヲフクラカニ盛テ神妙菜居廻シテ、一本ニハ箸ノ臺可有之略

〔空穂物語忠こそ〕たゞ君の御前にまいり給て、ちさき玄やうぶにかくかきてをきたり、はしのだいに、

けふだにもあふとまらなんあやめ草なみだの河のふかきみぎはに、とあり、

〔兼盛集〕御はしのだいあるおしきのおもてに

君がへん萬代のかずかぞふればたゞかたはしの千とせなりけり

〔紫式部日記〕御いかは霜月のついたちの日、れいの人々のまたて、のぼりつどひたり中わか

宮一〇後の御まかなひは、大納言のきみひんがしによりてまいりすへたり、ちいさき御だい、御さ

らども、御箸のだい、すはまなども、ひいなおそびのぐとみゆ又見祭花物語

〔今昔物語二十八〕三條中納言食水飯語第廿三

今昔三條ノ中納言藤原朝成ト云ケル人有ケリ中中納言侍ヲ召セバ、侍一人出來タリ、中納言例

食フ様ニシテ、水飯持來ト宣ヘバ侍立ヌ、暫許有テ、御臺行□□ヲ持參テ、御前ニ居エツ、臺ニハ箸

ノ臺許ヲ居エタリ、

〔台記別記〕久安三年三月廿八日辛卯 入道殿御賀藤原忠實七十賀雜事中

一後宴日中 御賀御前物目錄右大將調中